

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成26年度第13回（定例会）

署名人

委員長

開催日時 平成26年10月10日（金）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時51分

開催場所 那覇市役所11階 1101A・B会議室

出席委員 添石幸伸委員長、喜久里美也子委員、饒波正博委員、神村洋子委員、渡慶次克彦教育長

議 事 日 程

（1～4については非公開）

- 1 報告1 職員人事（指導主事採用）に関する教育長の専決について 【総務課】
- 2 報告2 教育長が臨時代理したことについて 【学校教育課】
- 3 報告3 教育長が臨時代理したことについて 【学校教育課】
- 4 報告4 平成26年度那覇市一般会計補正予算（9月補正）の確定について 【総務課】
- 5 報告5 那覇市議会9月定例会における議決議案及び代表・一般質問答弁状況について 【総務課】

出席職員

【生涯学習部】伊良皆宜俣部長、屋比久猛義副部長

（総務課）山内健課長、佐久川敏明副参事、稲森恵子主査、島袋久美子主査、伊禮道子主査

【学校教育部】田端一正部長、森田浩次副部長

（学校教育課）大城義智副参事

会議録作成（総務課）赤嶺明日香主査

添石委員長	これより平成26年度第13回教育委員会会議定例会を開催いたします。本日の会議録署名は饒波委員にお願いいたします。それでは会議を進めますが、報告1から報告4については、人事または予算に係る案件であるため、非公開とすることが適当であると思われます。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項及び第7項」により非公開について採決いたします。それでは報告1から報告4については、非公開としてよろしいですか。
全 員	異議なし
添石委員長	それでは報告1から報告4については、非公開とします。関係者以外は退席をお願いいたします。
	～ 非公開 ～
添石委員長	それでは報告4まで終了いたしましたので、非公開は解かせていただきます。それでは、報告5「那覇市議会9月定例会における議決議案及び代表・一般質問答弁状況について」の報告をお願いいたします。はい、伊良皆部長。
伊良皆部長	報告理由説明
山内課長	資料説明
添石委員長	それでは、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。はい、神村委員。
神村委員	男女混合名簿が何件かありますよね、復活したのでしょうか。説明をお願いします。
添石委員長	はい、田端部長。
田端部長	男女混合名簿については、3名の議員から質問があります。いずれも男女平等参画意識、その考えの基でのご質問でありました。私達としては男女平等プランに基づいて、目的に応じた男女混合名簿を使って、最終的な目的は男女平等の意識を高めることですので、そういう目的の基に各活動、それからその効率性、そこら辺の名簿のもつ効率性も勘案しながら、男女混合名簿、目的に応じて是非使って下さいと言う形で学校のほうにお願いしておりますし、また学校のほうでもそういう形で目的に応じて、例えば委員会活動であったり、クラブ活動であったり、そういうものは混合名簿でやっております。
神村委員	ありがとうございます。
添石委員長	よろしいですか。
神村委員	一時、現場の校長判断で取り入れた学校が何校かありましたけれども、いろんな意味でその場に応じた名簿の使い方があるという事で。出席簿とかいろんな物に関しては、それにならないという事が多かったケースがあると思うんです。でも最近ではエクセルがあるのでデータ処理に関しては凄くやりやすい面があるので、前とは少し違う状況が出てきているとは思うんですね。ただこの性差でやった時に、やはり現実的な問題がどうしても出てくるんですね。教育委員会として現場

に強制じゃなくて、学校長判断で使っていただきたいなと思うのですが。確かに意識は育って行くと思います。ただこれが全てではないし、そういう意味では教育委員会のこの文章を見ていたらどうだと思いました。

添石委員長 はい、教育長。

渡慶次教育長 神村委員がおっしゃった様に、エクセルとかそういったものが出てるので、目的に応じて例えば住所順に並べるとか、生年月日順に並べていくとか、パッとすぐできるんですよね。ですから目的に応じてやろうと思えば今の時代だったらできるのかなと、必ずしも分けるとかでは無くて、目的に応じてできやすいようなツールがあって、その都度応じて校長が判断やりやすいように、我々が混乱させるようなことでは無くて、やりやすいようにやっていただきたいと思います。

神村委員 人権意識が一番大事だと思いますので、そういう事を踏まえて、手段の一つとして使っていただきたい。

渡慶次教育長 目的に応じて。仮に、住所順に並べたときに、なんでうちの住所が最後かという、こういう問題が出てくる。目的に応じてですからこれはしょうがないですよ。

添石委員長 関連して、私も思ったのですが、今、お話があるように本当に手段、手法の一つだと思うのですが、実際に意図する所の効果と、また意図して無かったところが出てくる結果という、その辺の検証と言うのは全国的に行われているのでしょうか。そういう分析と言うのはあるのでしょうか。勿論、良い効果もあるのでしょうか。果たしてそれが本来の目的としている所への有効手段なのかですね。

田端部長 結論から申し上げますと、全体的な概要については、探すことができませんでした。県内の自治体で導入するところの事例を聞いたり、新聞報道上で確認しましたら男女仲が良くなったとか、男女平等が進んでいるというのはありますので、議員のほうに先進自治体の事例研究をするとお約束しましたので、それをしっかり研究していきたいと思います。

添石委員長 是非、学校現場だけで無くて、やはりこういう環境で育った子供の将来、社会に出ていったところで本来の意味が出てくると思うので、もう少し時間がかかると思うのですが、教育委員会としてもそういう視点で今後ともまた情報収集のほうはしていただきたいと思います。他、いかがでしょうか。はい、喜久里委員。

喜久里委員 9ページにある質問、確か昨年度、とてもトラブルになった問題の事だと思うのですが、これについて少し詳しく教えていただければと思います。

添石委員長 はい、田端部長。

田端部長 本事案は、ご存知のように特別支援学校、知的のほうですけれども、保護者も要望して、那覇市就学指導委員会でも検査の結果、知的な特別支援学校が望ましいという結果を出して県のほうに上げた訳ですが、県のほうではそうじゃないという結果が返ってきたものであります。本事案は保護者の方が、公立の普通学校に

行かせないと、あくまでも特別支援学校に行きたいという事で、いろいろともめた事案であります。県のほうが再度、審査に応じるという事があったものですから私達のほうとしても、再度この該当する子どもの様子を、もう少し現時点でのものと取り直しをして、その部分をしっかりと、きちんと作り直して出して通ったと言う事案です。

添石委員長
饒波委員

他、ご意見、ご質問ございませんか。はい、饒波委員。

いじめについての質問で、いじめ問題でデータを示してくれというか、議員さんの質問に対して回答が、文科省の調査で実数がでていると思うのですが、まずホームページを見て見たのですが、沖縄県までの実数は出ていましたが、市町村は出ていない、ホームページでは。市町村にはそれ以下のデータが配られているのか。一体、何市がそれを持っているのかということと、前にも質問したかもしれませんが、独自のそのデータと言うのは示すことはできないのでしょうか。文科省の調査であって、那覇市独自で調査してこうですよ、という二点質問します。

添石委員長
田端部長

はい、田端部長。

29ページのほうの委員のご質問の中にありますとおり、いじめの調査は文部科学省の調査になりますけれども、その調査の報告の段階は、学校で毎月のいじめ問題の問題行動等調査の中でデータとして集めてきます。それを教育委員会でまとめて県のほうにやり、県がまとめて文科省にいくという事になりますので、文科省は市町村単位のデータと言うのはおいてはこないんです。ですからこれはあらゆる段階で那覇市の取りまとめたという事のデータなんです。

饒波委員
田端部長

もともとは那覇市が集めたデータなんですね。

那覇市が集めたデータです。その時点でのデータがありますので、それでお答えしているということです。

饒波委員
添石委員長
饒波委員

わかりました。

はい、他、ないですか。はい、饒波委員。

11ページ、新聞でも話題になった問題ですけど、NPO法人那覇市体育協会が、補助金でもって事業を展開しているのですが、余剰金を積立していたというようなことを問題にしているのですが、その辺のところ、議員が質問して答えのほうは少しよくわからないのですが、これについてはどういう見解なんですか。

添石委員長
伊良皆部長

はい、伊良皆部長。

お答えします。この部分につきましては体育協会のほうの指定管理費の中から生じた余剰金等々の積立の件について、その管理状況はどうなっているのかと言うのがありましたので、この件につきましては、包括外部監査の中でも指摘があったという事で体育協会のほうと調整を行ってやっている所であるということで話

をしております。それから更にこの積立金の決算書等の項目等々についても那覇市の指定管理者の制度に関する運用指針に基づいて、今後適切にやっていくという形で答弁をしまして了解をいただいております。以上です。

添石委員長

饒波委員、よろしいですか。

饒波委員

はい。

添石委員長

他いかがですか。はい、喜久里委員。

喜久里委員

3 ページの、教育研究所の実績と事業効果についてということで、先日、研究発表会を聞いてきたのですが、研究する方々達が例年に比べて減っている気がしたのですが、それは予算が削減されたのか、それとも何かの都合だったのか、と少し思ったものですから、もしわかるようでしたら説明をお願いいたします。

添石委員長

はい、田端部長。

田端部長

教育研究所の研修員は半年間、研究をするわけであります。学校、幼稚園の先生方ですので半年間、学校から抜けていくという事は、この方の代わりに臨時の方を充てることになっております。これが何名なのかというのは県のほうで人数の枠がありまして、その枠の中から那覇市は何名、浦添は何名、宜野湾は何名というふうに振り分けるんです。ですので、私達のほうとしては、できるだけ多くの先生方に研修してもらいたいのですが、平成20年頃1名減になった状態がありました。あれからあまり変わらないのですが、私達のほうとしては県にもっとたくさん下さいという要望を続けております。

喜久里委員

那覇市が減らしたという事ではないのですね。わかりました。

添石委員長

よろしいですか。他いかがでしょうか。はい、神村委員。

神村委員

教えてください。F C 那覇というチームがあつて、これは那覇市と関係がないのでは。那覇と言う冠が付いているから質問している議員さんがおりましたけれども。

伊良皆部長

これはフットボールクラブ那覇の略だと思うのですが、サッカーのチームになるんです。今回質問が出た議員の部分については、これまでもございましたけれども、いわゆる那覇と冠するチーム、いわゆる子ども達に夢を与えるようなプロチーム、クラブチームですね、そういったチームに対して那覇市として何らかの支援ができないのかと言うような質問はこれまでもございました。今回、F C 那覇と言うのが九州サッカーリーグに加盟をして活躍をしていると、九州サッカーリーグと言うのは沖縄県リーグの中で良い成績を含めてじゃないと、この九州サッカーリーグに加盟できないと。九州サッカーリーグも複数チームありまして、それでリーグ戦を行っているのですが、その際にホーム&アウェイ戦という形でやっているようです。勿論、当然アウェイ戦もありますから九州まで行かないといけない。この派遣のいわゆる旅費が、かなりいろいろと厳しいという部分が

あって、背景にはそう言った部分の工面も含めて、那覇市として何らかの支援ができないかという内容でした。このFC那覇に関しては、経済観光部のほうからも相談がありまして、活動場所について配慮ができないかということがありました。那覇市夜間運動場が8校ございますが、鏡原中学校ですかね、一部利用状況等々が緩やかな状況がございましたので、その分については一応配慮したというふうなものを答弁いたしました。議員としては那覇市として、何らかの取り組みの部分をやってってもらいたいという要望を述べてこの部分については終わっております。これまでも、さきほども申し上げましたけれども、いわゆるサッカーチーム、この方は特にサッカーに興味がございます、こういった部分に関しては地元のチームなので目いっぱい支援をしていきたいという背景にはございます。

神村委員

地元の名前を付けてチームとしてサッカーチームはいっぱいありますよ、FC琉球にしても。ですから那覇のチームが立ち上がったと思いました。運動場を貸すくらいで、那覇市としてのバックアップがあるのではないんですね。

伊良皆部長

一応、現在は、その様な状況になっております。

添石委員長

はい、喜久里委員。

喜久里委員

教えていただきたいのですが、28ページの「反転学習」という事を、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

添石委員長

はい、田端部長。

田端部長

反転学習は学習方法の一つで、最近アメリカから入ってきた方法の一つであります。反転と言う意味は、通常が学校で習ったものを家庭に帰って個人学習、宿題をするというのを逆にして、タブレット等を用いて、家庭で勉強をする。その成果を基に学校に翌日行った時に、それを基にディベートをしたり討論をしたりするとか、従来の学習方法をひっくり返すので反転学習と言われているものでございます。これはメインとしては、IC機器を使ってやるのがメインでありますけれども、資料読みましたら、IC機器だけでは無くてプリント等でもできますよ、と言うのがあります。そのプリントをもたせてそれで勉強して、それに基づき翌日は討論をしようという形になります。

喜久里委員

宿題みたいな。

田端部長

宿題みたいなものです。

喜久里委員

那覇市としては、それを効果的というふうに進めていらっしゃるのでしょうか。

添石委員長

はい、田端部長。

田端部長

結論から申しますと研究していかないと何とも言えない所はあります。これについては家庭学習と言う意味合いは大きいので、予習的なものについては多いに取り入れていきたいなと思っておりますが、保護者の協力を得ないといけない

所もありますし、また宿題については、いろんなお稽古ごとに行ったり、家庭でやることも、いろいろあると思いますので、そこら辺は一律に無くしてこれを全部やりなさいとは、なかなか難しい所もありますから、そこら辺も含めて研究していきたいと範囲でとどめております。

喜久里委員 わかりました。新しい方法で面白いなと思いましたが、研究進めていただきたいと思います。

添石委員長 他はいかがでしょうか。なければ私のほうから、25ページでさきほどの不登校等に関して、実数を改めて見ると那覇市内だけでもこれだけの人数がいるのかと驚かされるんですけども、右のほうの「最後に」という所で、何らかの理由で教室に入れない児童と言うのが、この不登校の児童とは別枠で表記されているのですが、この子たちは、どういう状況なのか、少し詳細を教えてくださいませんか。

田端部長 不登校の状況のデータについては、文部科学省のさきほどお答えしました調査に基づいた形で集約したデータでお答えしたものでありますが、最後の段の所ものは教育相談課の方で不登校学校訪問というのを行っております。すべての学校を回って、その学校の内情を聞いたりしながらやっていきますので、数字が変わってきております。何らかの理由で学校に入れない子どもと言うのは、一例をあげますと、保護者の方針によって学校に行かせていない子供もおりますし、それらの子ども達はいきなり教室に入れる状態でない場合が多いです。そうした場合には、まずは保健室へ登校して、それから次は教育相談室に登校して、それから教室に入れるという形をとって、原因がはっきりしない理由で不登校気味の子供についてはプリント等を通して家庭で宿題をさせたりしながら徐々にと言う場合もありますが、いずれにしても理由がはっきりしない子どもについても報告しております。

添石委員長 わかりました。よろしいでしょうか。他にご意見、ご質問ございませんので、報告5「那覇市議会9月定例会における議決議案及び代表・一般質問答弁状況について」は終了いたします。それでは以上をもちまして、平成26年度第13回教育委員会会議定例会を終了いたします。

案件の審議結果

報告2	教育長が臨時代理したことについて	承認
報告3	教育長が臨時代理したことについて	承認